

ドッジボールニュース

Vol. 2

2014.10

このドッジボールニュースは、スポーツ振興くじ助成金を受けて発行しています。



日本全国
ドッジのWA!

ドッジ王国・長野の復活を目指して

(若槻TOPGUN)

長野を代表するチームの一つ「若槻TOPGUN」。チームを率いるのは代表で監督の金井紀子さんと、長男でコーチの金井貴之さん。お2人はチームを指導する傍ら、県内においてドッジボール大会の企画運営も行っています。「二十一世紀少年少女杯」を運営する金井紀子監督、そして「リバイバルカップ」を運営する金井貴之コーチにお話を伺いました。

——若槻TOPGUN、チーム設立のきっかけは？

金井(紀) 1998年、当時小学校4年生の長男(現在、当チームの金井貴之コーチ)の担任がクラス

チームとして始めたのがきっかけです。最初は保護者でしたが、3年間のコーチを経て、現在監督として11年目になります。

——指導を行う上で大切にしてきたことは？

金井(紀) 「強いチームではなく、すごいチームを目指す」ことです。また、ありきたりかもしれませんが、プレーだけではなくマナーの良いチームを目指して日々の練習を行い、子どもたちには「練習はうそをつかない、経験は裏切らない」「夢は自分でつかむもの」という2つのことを教えています。

——指導を続けてきて変化や得たものは？

金井(紀) 私自身が元気になる、常に前を向いて進むことで多くの人と出会い、勇気や元気をもらっています。子どもたちも同じような経験をしているのではないのでしょうか。学校の先生から「〇〇くんはドッジを始めて授業中の集中力がものすごくついた」とか、お母さんから「ドッジで根性がつき、息子は見事〇〇高校に合格しました」といった連絡をいただいた時は、本当にうれしかったです。

——貴之コーチがお母さんのチームを手伝うようになったきっかけは？

金井(貴) 高校生の時、私の知っている母ではなく、熱意のある指導者としての母の姿を見て、手伝いたくなりました。現在、一緒に指導していますが、お互いの性格をよく理解しているので指導に専念できます。親子だからやりにくいということは全くありません。

——「二十一世紀少年少女杯」は、どのような大会ですか？

金井(紀) 対象は小学生のD-1チームで、土日の2日間開催します。土曜日に交流会・レクリエーション・懇親会、日曜日に本大会という形式で過去3回行いました。今年は会場の都合で土曜だけでしたが、途中の1時間は今回もイベントの時間を設けました。バンド演奏や椅子取りゲームなど場所と時間に適したレクリエーションを実施しています。



8月9日、県内外から18チームが結集し開催された『二十一世紀少年少女杯2014』

——開催する上で大切にしていることは？

金井(紀) この大会は、私が県内外の大会に参加させていたでいることに恩返しをしたくて始めま

した。選手はもちろん、指導者・スタッフ・保護者の皆さんが楽しめる大会にするのが目標です。

——では、「リバイバルカップ」は？

金井(貴) 出身チームのOB・OGのみで結成したチームが参加できるのが「リバイバルカップ」です。OB・OGが条件なので、世代を超えた選手たちが集まり、今では同じチームに12歳以上年齢が離れた選手がいるなど、見ても楽しい大会です。

——「リバイバルカップ」開催の目標は？

金井(貴) かつて「ドッジ王国」と呼ばれた長野の栄光をOBたちの力で取り戻し、シニアカテゴリーを普及することです。また参加者には、単に試合に出場するだけでなく、準備の大変さや迎える側の気持ちを理解してもらえればと思います。こういった経験はドッジボールだけでなく、今後の生活にも必ず役に立つと思っています。

——各地にはチームが企画運営する大会がいくつかあります。これから大会開催を考えている方々に何かアドバイスがあれば。

金井(紀) タイミングとしては、チーム結成〇周年というのが一番取り掛かりやすいのではないのでしょうか。私たちは、(ドッジは12人でやることから)12年目に始めました。開催に当たっては、まず普段お世話になっているチームに参加を呼び掛けまし

た。いきなり大きなことをしようとすると自分たちが楽しめなくなってしまうので、大会の規模はあまり意識なくてもいいと思います。

——最後に、春の全国大会に向けての抱負をお願いします。

金井(紀) 今年は、球速・威力ともあるアタッカーが1人いるので、その子を中心に受け手の技術向上と、とにかく守備の強化が一番の課題です。あとは、指示待ちではなく自ら行動できるようにしてほしい。私がいつも言っているのは、「スポーツがうまくなるには、素直な心が一番」ということです。



「リバイバルカップ」に出場した若槻TOPGUN classic。前列右端が金井紀子さん、左端が金井貴之さん

Check it!

この話題は見逃せない

魅せよ、女子力。

第1回全日本女子総合選手権ってどんな大会？

2014年12月20～21日、国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて、D-1Gチームならびにシニア女子チームを対象とした全国大会を開催します。これまで女子の大会は夏と春のD-1全国大会と併催してきましたが、今回、新たな方式での開催に至った理由や内容などについてご説明します。



Q1 今までは全国大会を年2回開催してきたのに、なぜ年1回に減らしたの？

A1 ポイントは2つ。これまで全国大会に出場した女子選手の多くが、「女子」と翌日の「混合」の両方に出場していました。小学生が連日競技することは、心身の負担となることが懸念されます。また、D-1Gカテゴリーが新設されてから5年目になりますが、登録チーム数は110～130チームという状況が続いています。女性のスポーツ参加促進は国が力を入れている施策の一つであり、より多くの女性がドッジボールに関わるには、競技会だけではなく、さまざまな地域・世代の仲間との交流や競技者として必要な知識・技術の習得を行う機会を作ることが必要です。このような理由により、女子の全国大会を冬の1回とし、新しい価値を付加することで、むしろ女子選手の活躍の機会を増やせるのではないかと考えます。そして、「どうしても、この大会に出たい!」「もっと女子チームで活動を続けたい!」という思いが各地で生まれることを期待しています。

Q2 女子総合選手権はなぜ宿泊をするの？

A2 チームの仲間と寝食を共にする経験は、それだけでワクワクしますね。それが、さらに全国から約500名もの女子選手が集まってくるとすれば、「大勢の仲間がドッジボールが大好きで頑張っている。だから私も頑張ろう!」と感ずることができるでしょう。チームの枠を超えて交流することが大切で、その方法として合宿という形式を採用しました。

Q3 子どもたちだけで泊まるのは心配。親も宿泊できませんか？

A3 親御さんは不安に思われるかもしれません。しかし、子どもたちだけで宿泊することで得ることも大きいのではないのでしょうか？ JDBAは「自主性・向上心・自己責任」を育むことを重視しており、参加する全ての選手が精神的にも大きく成長することを願っています。

Q4 講演会のゲストはどなた？

A4 今回はトークセッションという形式を予定しており、ゲストは女子バレー元日本代表選手の吉原知子さんです。吉原さんは日本代表の主将を務めただけでなく、日本初のプロ選手としてイタリアリーグでも活躍されました。吉原さんの経験を伺うことはもちろん、吉原さんにドッジボールの魅力をアピールしちゃいましょう! また、参加者からの質問コーナーも設ける予定です。

※トークセッションはチーム関係者もご参加いただけます(要申込)。

Q5 それ以外のイベントのメニューは？

A5 まず、9月に開催された「第2回アジアカップ」の報告会を行います。報告会といっても堅苦しいものではなく、アジアカップの思い出や出場して経験したこと、大会にまつわるウラ話など、映像を見ながら話を進めていきます。今回は残念ながら12歳以下女子の部の日本代表が作れず、2大会連続の全部門制覇はなりませんでしたが、2年後の「第3回アジアカップ」に向けて、アピールさせてください。次に、日本代表メンバーによる技術講習会を行います。選手の皆さんがレベルアップしたいと思っていることを分科会形式で実施。また、日本代表専属トレーナーによるチーム指導者・保護者向けの講習も開催する予定です。

Q6 参加するには、どうしたらいいの？

A6 D-1Gチームとシニア女子チームで手続きが異なります。

- D-1Gチーム：各都道府県での予選会で優勝した後、チームサイトから女子総合選手権の大会エントリーを行います(一部、出場チーム数の多い予選会からは準優勝チームも出場できる可能性あり)。優勝しても自動的にエントリーされないのが、ご注意ください。
- シニア女子チーム：シニアチャンピオンシップに出場あるいは優勝していなくても、女子総合選手権に出場できる可能性があります。公式サイトを通じ、専用フォームからお申し込みください。

※D-1Gチーム、シニア女子チーム共に、詳しくは公式サイトをご覧ください。



吉原知子さんのプロフィール

元全日本女子バレーボール代表・主将、スポーツコメンテーター。日本女子バレーボール界、悲願の五輪出場を懸けた2004年アテネ五輪世界最終予選で「最後の切り札」として主将に抜擢される。柳本ジャパンの精神的支柱として、闘志を前面に出すスタイルでチームを牽引。見事アテネ五輪出場を果たし、日本中を沸かせた。イタリアでの海外プレーの経験も併せ持ち、また国内では所属した全てのチームで優勝という華やかな戦績を残し、「優勝請負人」と呼ばれた。五輪出場3回の経験は日本女子バレーボール界の至宝といえる。08年に2016年東京オリンピック・パラリンピック招致委員を務め、アスリートの立場から招致活動を展開。また09年より筑波大学大学院で体育学を専攻し、11年に修士課程を修了。そのキャリアを活かし、12年には大東文化大学講師を1年間務め、現在はVリーグ初の女性理事としても活動する他、TV解説、教室を中心に、講演活動も積極的に行っている。



熱いぞ！
ドッジボール

第24回全日本ドッジボール選手権 全国大会

8月17日、北海道札幌市の北海道立総合体育センターに全国の都道府県代表46チームが集結し、「第24回全日本ドッジボール選手権全国大会」が開催されました。優勝したのは、決勝まで1セットも落とさぬ圧倒的な強さを見せた愛知県代表・サザン'97。そして、惜しくも準優勝にとどまったのは三重県代表・BLAZEでした。



優勝した愛知県代表・サザン'97



準優勝の三重県代表・BLAZE

東海勢対決、
軍配はサザン'97に!!

■通過点の優勝

「ええ、今回は最初から優勝を狙っていました。幼稚園の時からずっと続けてきた子どもたちが中心のチームなので、かなりいけると思っていましたから...」。そう語るの、サザン'97の都竹（つづく）真有美監督。春の大会を含めると、全国大会に出場するのは十数回という強豪チーム。その秘密はどこにあるのか？「常に日本一を目指して練習していること。とにかく目標を持つこと。それにつきます」と話されています。

現在、サザン'97には近隣の小学校10校に通う四十数名が所属し、年齢層、各学年ともにバランスのとれたメンバー構成になっているのが特徴。また、サザン'97には幼稚園、小学生、父兄、一般のチームがあり、実際にプレーしている人は100人を超えているという。「チーム内の雰囲気がとてもいい。もちろん、父兄の協力もすごいですし、これがチームの強みになっていると思います」

練習は水曜日が休みで、毎日夜7時から9時までの2時間。土日も練習と対外試合に当てているが、時間はいくらあっても足りないという。「今回の優勝については、子どもたちもとても喜んでいましたが、まだまだ通過点です。来年の春の全国大会もあるので、夏と春を連覇してこそ目標達成です」

ちなみに、本号の表紙では親子で監督とコーチとして指導に当たる若槻TOPGUNを紹介しましたが、



白熱した決勝戦の様子

サザン'97も同様で、都竹監督のご子息・真一郎さんがコーチを務めています。このあたりも、サザン'97の強さを支えている秘密かもしれません。

■悔いのない準優勝

一方、三重県代表・BLAZEは、名古屋市で開催された今年の春の全国大会にも出場。その時は、予選リーグで敗退しましたが、この悔しさをバネに夏の全国大会では予選リーグを全勝。決勝リーグに入って準決勝は第1セットを失ったものの、第2・第3セットを連取し逆転勝ちで決勝進出。

「あと一歩でした。結果は準優勝ですが、選手は全員100%、いや、それ以上の力を発揮してくれたと思います。予選から一戦一戦挑み続けて得た結果なので、本当に悔いはありません」と、チームを率いる久保田万有美監督。

BLAZEは四日市市内の小学校に通う子どもたちがメンバーのクラブチームで、かつて四日市市スポーツ少年団でドッジボールを指導していた久保田監督が2009年に設立。結成5年目とまだ歴史の浅いチームですが、今年は春・夏と連続し三重県代表として全国大会に出場。四日市市内の旧三浜小学校の体育館をホームグラウンドに、水・木・土・日の週4日、2～5時間の練習することでこうした結果を出しています。

夏の全国大会を終えた今、「目標は来春の全国大会出場」と久保田監督。チーム名のBLAZEとは「強い輝き」という意味。ぜひ頑張ってください。

第2回アジアカップ結果

9月13～14日の2日間、台湾新北市において第2回アジアカップが開催されました。日本からは3カテゴリーに参加するため、男子代表18名、女子代表16名、そして佐野小ファイターズが参加し優勝しました。成績は以下の通りです。

12歳以下男子の部

日本 対 中華台北B
2 $\left[\begin{array}{c} 10 - 9 \\ 11 - 5 \end{array} \right]$ 0

日本 対 香港
2 $\left[\begin{array}{c} 11 - 1 \\ 11 - 6 \end{array} \right]$ 0

日本 対 中華台北A
2 $\left[\begin{array}{c} 8 - 7 \\ 10 - 6 \end{array} \right]$ 0

13歳以上男子の部

日本 対 中華台北A
2 $\left[\begin{array}{c} 8 - 6 \\ 7 - 8 \\ 10 - 0 \end{array} \right]$ 1

日本 対 中華台北B
2 $\left[\begin{array}{c} 7 - 6 \\ 5 - 9 \\ 7 - 6 \end{array} \right]$ 1

日本 対 香港
2 $\left[\begin{array}{c} 9 - 2 \\ 8 - 6 \end{array} \right]$ 0

13歳以上女子の部

日本 対 中華台北B
2 $\left[\begin{array}{c} 9 - 1 \\ 9 - 0 \end{array} \right]$ 0

日本 対 中華台北A
2 $\left[\begin{array}{c} 8 - 2 \\ 7 - 2 \end{array} \right]$ 0

日本 対 香港
2 $\left[\begin{array}{c} 9 - 0 \\ 9 - 0 \end{array} \right]$ 0



パーフェクトな試合運びを見せた女子チーム



7月5～6日に開催された日本代表候補の合宿に集結した候補選手

JDBAインフォメーション 協会からのお知らせ

■集合学習①(おやこドッジすくう)にご参加ください 普及委員会

今年度より各都道府県協会主催で指導者に対する講習会(集合学習①)を実施しています。公認指導者資格の課程の一つとなる集合学習①では、「おやこドッジすくう」の必要性和プログラムについて、また、導入指導における子どものかかわり方などについての知識を学ぶことができます。チームの存続問題や初心者への指導に悩んでいる皆様にとって役に立つ講習会です。指導者だけでなく18歳以上であれば選手のご家族の方も受講できますので、お住まいの都道府県協会に開催日程を確認のうえ、是非ご参加ください。

■チームサイト・メンバーサイトの定期的なご確認のお願い 事務局

チームサイト・メンバーサイトでは、JDBA事務局からのお知らせを掲載しています。重要なお知らせを掲載することもありますので、定期的なご確認をお願いいたします。また、引越しをしたときや連絡先が変わったときにはチームサイト・メンバーサイトの情報を忘れずに更新していただきますよう、お願いいたします。

一般財団法人日本ドッジボール協会

<http://www.dodgeball.or.jp>

〒105-0004 東京都港区新橋6-4-3 ル・グラシエルBLDG.7-405

TEL.03-5776-1830 FAX.03-5776-1840



このドッジボールニュースは、スポーツ振興くじ助成金を受けて発行しています。